



テーマは 「安らぎ」 災害への備えについて考えます。

安らぎ通信 NO. 1

平成30年 **11**月の**安らぎ**通信

目次

- (1)  南海トラフ 監視強化 全想定震源域に観測装置
(2)  ブロック塀「耐力不足」 女兒死亡 点検でも倒壊防げず

(1) 南海トラフ 監視強化 全想定震源域に観測装置

人的被害 最小限に

- ・政府は、東海沖から九州沖の太平洋海底にかけての南海トラフでの巨大地震に備え、海底の監視体制を拡充します。
- ・専用の装置を沈めて細かな地殻変動を観測する区域を、今の 15 カ所から 2020 年度までに 23 カ所に増やし、すべての想定震源域で測れるようにします。
- ・南海トラフは、これまでも 100 年弱から 150 年程度の間隔で大地震が繰り返し発生。
- ・政府の地震調査委員会は、今後 30 年以内に南海トラフ沿いでM8～9 級の巨大地震が発生する確率が、今年 1 月 1 日時点で「70～80%」になったと発表しました。

(2018 年 10 月 6 日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



(2) ブロック塀「耐力不足」 女兒死亡 点検でも倒壊防げず

- ・6 月に大阪府北部で震度 6 弱を観測した地震で、高槻市立寿栄小学校のブロック塀が倒壊し、登校中の女兒が下敷きになり死亡した事故で、調査を進めてきた市の第三者委員会は、設計・施工不良や腐食による耐力不足が事故の主原因と考えられると答申。
- ・同種のブロック塀対策として、適切に法定点検を実施しても内部構造を確認できず、倒壊を防げないため「すべて撤去すべきではないかと考えている」と指摘。
- ・建築基準法に適合した場合に比べて、耐力は 2 割以下とみられます。
- ・設計図はなく、施工業者もすでに解散していたため、関係者へのヒアリングはできませんでした。

(2018 年 10 月 30 日 日本経済新聞記事から抜粋引用)